

1人1台端末の活用による実践事例

学校名	倉敷支援学校	実践者名	宗包 浩和
実践場面 (教科)	個別の学習 (算数、数学)		
単元・題材名	計算を解いて、ホームランをたくさん打とう		
学習目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10問程度の計算問題に繰り返し取り組むことができる。【知・技】 ・ より良い記録を出すために、解き方を工夫することができる。【思・判・表】 ・ タブレットによる学習の形態に親しみ、進んで取り組むことができる。【学】 		
対象の児童生徒の 実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭では日常的にスマートフォンやタブレットを使って動画を見たりゲームをしたりしていて、基本的な操作は身に付いている。 ・ 一度解けるようになった計算問題は、「飽きた。もうやった。」などと言って繰り返し取り組むことを嫌がる。ただし、完全に定着しているわけではなく、繰り返しの練習が必要な状況であることも多い。 		
活用の概要 (使用アプリ名を含む) ※写真も掲載する			
<p>① タブレット端末の使用ルールの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タブレット端末は学習のために借りている物であること、決められたアプリやサイト以外は使わないことなどを確認した。 			
<p>② タブレット端末で計算問題に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知育アプリ「ワオっち」内のゲーム「さんすうホームラン」で計算問題に取り組むようにした。 ・ 問題の難易度は児童に選ばせ、自信をもって取り組めるレベルから始められるようにした。 ・ 10本中何本正解できたか (ホームランを打てたか) をホワイトボードに記録していった。 			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>			
<p>③ ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10問の問題のゲーム×3回で、30問の問題に集中して取り組めたことを伝え、称揚した。 ・ 繰り返し練習していけば、ホームランをもっと打てるようになると伝え、次回以降の学習の意欲付けを行った。 			
活用のポイント・改善策等			
<p>児童が日常的に使用しているタブレット端末で学習を行うことで、繰り返しの練習が苦手な児童でも意欲的に学習に取り組むことができた。自分で難易度を選ぶことができたので、自分のペースで落ち着いて学習することができた。正解数がホームランの数、かかった時間が飛距離として記録されるのでより良い記録を目指して、何度も挑戦する姿が見られた。</p> <p>タブレット端末を用いることで繰り返しの学習に取り組めたが、「一度できたことはもうなくていい」という本児の考え方が変化した訳ではない。タブレット端末での学習をきっかけに、「何度も練習することでより自分に知識や技術が身に付いていく」という経験を重ねて他の場面でも取り組めるようにしていきたい。</p>			